



## 夏の大収穫



5月の連休明けに植えた野菜も、夏前半の好天に恵まれどんどん成長したおかげで、たくさんの作物を収穫することができました。（写真は登校日に収穫する生徒の様子など）

カボチャは8個、スイカは直径22~3cmのものと15cmほどのものが各1個。トマトは通常のトマトが12個、ミニトマトは実がついているのを200個までは数えたのですが、その後も次々と実がついて、何個収穫できたのか不明です。オクラは今もなお実ができていて、現在5本ほど。落花生はもう少し先にならないと実にならないので、もう一息です。

緑のカーテン用にいただいたゴーヤも7~8個実をつけました。昨年は作物のほとんどを鹿に食べられ、わずかしこ収穫することができませんでしたが、今年は上々の収穫量でした。

自分の育てた野菜を手にする生徒たちも、とてもうれしそうです。



## 緑のカーテン



5月末頃、美祢市生活環境課のご配意により、本校にも「緑のカーテン」を設置しました。

こちらも、天候に恵まれ、どんどん育ち、今では2階のベランダまで届くほどです。

日差しを遮るほど葉が茂ってはいませんが、校舎の玄関先に涼しげな日陰をつくり、ホッとする空間ができています。

収穫した実は採りたてということもあり、苦みやえぐ味もなくとても食べやすいものでした。

## この夏の話題といえば…

東京五輪をあげる人が多いのではないのでしょうか？

コロナ禍の渦中ではあったものの、世界のトッププレーヤーがしのぎを削りながら、超人的な技を披露し、感動を呼び起こしました。日本人初！数十年目のメダル、世紀の大逆転、レガシーの誕生・・・など日本人選手の活躍のたびに、テレビ観戦をしながら興奮したものです。

そんな中「レガシーの誕生」という言葉に、リオオリンピックでの出来事を思い出しました。

覚えていらっしゃる方が多いと思いますが、テニスの2回戦。錦織選手がサーブの後、手を滑らせてラケットを落とし、すぐに拾ってプレーを続行した場面です。

このとき、スーパープレーだと報じられました。最初は自分もそうだと感じていたのですが、よくよくその場面を見ると、サーブを受けたスペインのラモス選手は、ふわりとした山なりのボールを返していました。五輪に出るほどの選手です。打ち返そうと思えば、いくらでも強く打って返せるはずです。

ここから先は私の勝手な想像です。

ラモス選手は敢えてゆっくりと返球したのではないかと思います。どうしてそう思うのか？実は1920年のテニスウィンブルドン大会の決勝戦で同様なことが起こっていました。

アメリカのチルデン選手がショットを打ったとき、足を滑らせ転倒します。その時の相手は、日本の清水善三選手です。清水選手は打とうと思えばいくらでも強い球を打てたのに、「柔らかなボール」を返しました。それにより、体勢を整え試合は継続し結果的にチルデン選手が勝利します。勝つことだけから見ると、「甘い」という人もいるかもしれませんが、しかし、テニス場はフェアプレーをたたえ、万雷の拍手が鳴り止まなかったそうです。

100年も前の話ですから、ラモス選手がこのことを知っていたかは定かではないですが、日本人と対戦するとき、先人に敬意を表し正々堂々と戦ったような気がします。

結果を出すためなら、どんな卑怯な手でも使うような試合に、感動は生まれません。ルールに従って、精一杯戦うからこそ感動やドラマが生まれるのではないかとそんなことを考えながら、スポーツの素晴らしさを改めて考えさせられた、東京オリンピックでした。



## 9月の主な行事



8月25日(水)	始業式・大津緑洋高校 OP キャンパス	7日(火)	身体測定
8月26日(木)	職場体験学習(～27日)	20日(月)	敬老の日
9月1日(水)	給食開始・学習会(～3日)	23日(木)	秋分の日
6日(月)	3年生習熟度診断テスト	29日(水)	修学旅行(～30日) *状況により変更あり